
なんかもう連載でいこうと思う

ギャグの人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なんかもう連載でいこうと思う

【Nコード】

N2217BA

【作者名】

ギャグの人

【あらすじ】

『よく分からないテンションでいつてみよう』、『著が転がると面白い』、『天狗』と意味の分からないものを書いたのでどうせならもう連載でいいかなと思っただんです。

もうすぐ日が沈む（前書き）

連載することになりました。

続くのでしょうか？

もうすぐ日が沈む

「あゝあ、もうすぐ太陽が沈むな何してたんだろ俺」

なんであんなの書いたんだろ？

「はあ、一日が86,400秒とか長いようで短いよな、なんだか秒数に直すと残念な感じがする」

あ、箸が床に……ぷっ。

「いやいや、ダメだろ自分もうそれについてはさんざん笑ったぞいやでも、ぷっくくく、ダメだ自分耐える」

俺は自分の口を両手で押さえる。

「ぶっぶ、なんだこれ、さっき笑ったのが思い出し笑いの要領で戻って」

お、俺はもう限界なんだ！ 普段こんなに笑わないからすでに顔中の筋肉が痛い、それにさっき最後まで投稿したのにもうダメだ、腹筋も顔面も痛い、死ぬ、笑い死ぬ腹筋と顔の痛みで死ぬ。

「みんな、俺はもうダメなようだ、何してんだろな俺もう色々ダメだな最初から分かってたけど」

なんだかもう少しがんばれば新しい扉を開けられそうだが、みんなさようなら。

新しい扉なんてなかった（前書き）

誰か新しい扉開く方法知ってる人いないですか？

新しい扉なんてなかった

「やべえ、なんか新しい扉開いたと思ったらぜんぜん違った」

なんかもう腹筋ていうか肺の辺りが痛い、多分横隔膜が痛い、すごく痛い。

どれぐらい痛いかというと切実に痛いなんか笑う気力がなくなるぐらい痛い。

「失恋したらこんな風に胸が痛くなるとか言いたい、あつ、言っちゃったぜ」

もうなんかさ俺、シユールな小説書きたいと思ったわけよそれでシユールの意味調べてみた。

シユールレアリスムの略。

こんなところでいいかな。

「はあ、何で桃太郎は縦に割れなかったんだろ？ 桃は見事に真っ二つなのに桃太郎は無事とかどんな包丁捌きだよ」

桃太郎旅の途中で真っ二つにならないかな時間差とかで。

姉と弟（前書き）

なんか電波がゆんゆんきた。

姉と弟

「姉さん見ておじいさんが鳩にえさをあげてる」

「そうだな弟よ、しかし何をあげているんだろうな？」

「あれは多分豆だよ」

「おお、豆か何の豆だろうな？」

「確かに何の豆だろう？ 少し見てくるよ」

「気をつけるよ弟よ」

「分かったよ姉さん」

「ふむ、何をあげているんだろ？ あ、近づいたら鳩が飛んでいってしまった」

「喝ッ」

「え？ いた、痛い、なにあのおじいさんこっちに豆投げてきた、あつ、これ大豆だ」

「ハッ」

「いた、いたい、これは鬼が泣くのも分かるよ逃げなきゃ」

「フンッ」

「おじいさん追いかけてきた！ こわっ、めっさ顔こわっ！！ 姉さん助けて」

「弟よさらばだ」

「はやっ！！ え？ なにあれはじめてみたよ姉さんがあんなに早く走るの！ 豆が地味に痛いよ！ もういやだよ」

「はっ！ 夢か」

「姉さんどうしたの？」

「うん？ いや、弟が大豆を持ったおじいさんに追いかけられる夢を見たんだよ」

「え？」

「え？」

「それだけ？」

「それだけだ」

「そっか」

「そっだ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2217ba/>

なんかもう連載でいこうと思う

2012年1月6日22時46分発行